

北海道社会科研究

「ネットワークを生かして実践研究の充実を」

北海道社会科教育連盟 委員長 平澤 淳志
(札幌市立円山小学校長)



今年度、前任の千葉一博校長先生からバトンを受け継ぎ、北海道社会科教育連盟委員長を拝命いたしました、札幌市立円山小学校長 平澤淳志と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

5月11日（土）の道社連総会で、「私たちの強みである各地区のネットワークを生かし、実践や取り組み方を交流して研修を深めることで、社会科教育を充実発展させるという道社連の役割を未来につなげていきたい。」と挨拶させていただきました。道社連には15の地区組織があり、それぞれ特色ある研究・研修活動を進めています。道社連総会で配付された「地区活動だより」には、各地区で行われた学習会・セミナーの魅力的なテーマや、運営方法の工夫が紹介されていました。会員数の減少、特に若手会員の確保が難しいという悩みを抱えている地区も多い中、組織活性化に向けてとても参考になる情報でした。

来る10月25日（金）には、函館市及び北斗市で第79回北海道社会科教育研究大会函館大会を開催し、小学校2授業、中学校3授業を公開します。函館地区と渡島地区の連携、さらには小学校と中学校の連携は、道社連の素晴らしいネットワークであると言えるでしょう。大会当日は、各地区からたくさんの会員が大会に参加し、多くの成果を上げることが期待されます。

もう一つ、私たちには、全国小学校社会科研究協議会（全小社研）のネットワークもあります。一昨年の全小社研全国大会北海道大会では、道社連実践研究の成果と課題について様々なご意見をいただきました。また、研究紀要の紙面上ではありましたが、各都府県の実践提案からも多くを学ぶことができました。

今年度の全小社研の会長は、北海道大会の記念シンポジウムでシンポジストとしてご指導いただいた石井正広先生（新宿区立四谷小学校長）です。石井校長先生には、今年度の函館大会でも、パネルディスカッションのメインパネリストとしてお越しいただく予定となっております。広い視野から道社連の研究を捉え直すことができる、大変貴重な機会となるでしょう。

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代を迎え、教育界においてもDXの推進やウェルビーイングの向上など新たな課題がクローズアップされています。このような時代であるからこそ、道社連の様々なネットワークを生かして視野を広げ、実践研究を充実させることで、「社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成」を力強く具現化していきましょう。

令和6年度 北海道社会科教育連盟 総会

新3か年継続研究の2年次の活動スタート 社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成

令和6年5月11日(土)、令和6年度北海道社会科教育連盟総会が札幌市立円山小学校にて開催されました。3か年継続研究の2年目における研究内容の共有と各地域の活動の充実を図るため、全道各地区の代表者が参加し、熱の入った討議を行いました。

〈総会〉

午後2時より開催された総会では、まず各地区交流が行われ、令和5年度のそれぞれの地区における授業実践をもとにした研究や、活動の充実を図るための各地区の工夫などについて説明がありました。学習会や研修会、研究会、新会員獲得に向けた取組と組織力強化等、全道各地で社会科の研究を推進する報告がなされました。続いて、道社連事務局次長 田丸明史先生の司会により議事を進行し、令和5年度の事業報告・各部年間活動報告・各地区の活動報告・会計決算報告が行われました。続いて、令和6年度の事業計画・予算案等を提案し承認されました。次に、道社連研究部長 河原秀樹先生から、札幌大会での成果と課題を基に、重点1. 子どもの思考プロセスを大切にした単元デザイン 重点2. 手立てⅢに向かうための新たな問いの醸成 重点3. 「選択・判断する」「議論する」「構想する」という2年次研究の重点についての提案がなされ、各地区が共に進んでいく研究の方向性が示されました。

最後に、道社連副委員長 橋本隆先生から、函館大会に向けて、産業の特色と豊かな歴史を生かした教材化への期待、そして、全道の活動への激励の挨拶があり、総会は閉会しました。

令和6年度 北海道社会科教育連盟役員

委員長	平澤 淳志	札幌市立円山小学校	新
副委員長	青山 天生	旭川市立近文小学校	新
副委員長	大西 展史	白糠町立庶路学園	再
副委員長	近江 辰仁	函館市立桔梗小学校	新
副委員長	葛西 統実	積丹町立日司小学校	新
副委員長	蟹谷 正宏	愛別町教育委員会	再
副委員長	橋本 隆	札幌市立川北小学校	再
副委員長	千葉 敏雄	札幌市立新琴似中学校	再
副委員長	石川 篤司	札幌市立二条小学校	新
副委員長	太田 和幸	札幌市立月寒中学校	新
会計	大畑 秀樹	札幌市立中沼小学校	再
監査	塚田 崇	羽幌町立天売小中学校	再
監査	丹野 聡	中標津町立丸山小学校	再

全 道 各 地 区 交 流

《旭川地区》 佐藤 太一 旭川市教育研究会社会科研究部 研究部長

昨年度は、市旭研と合わせて、相乗りをさせていただき形で進めてきた。今後の研究を見据え、組織力をより高めていける一年にしていきたいと考えている。

《網走地区》 山谷 大輔 網走地区社会科教育研究会 事務局長

昨年度は「自己決定」をキーワードに研究を行ってきた。管内や各地区の先生方と交流会を行うことができた。網走地区では会員数が少しずつ増えている現状であり、維持していきたい。

《胆振地区》 細部 善友 胆振社会科教育連盟 事務局長

責任提案では、10名という人数の中でも新しい活動を行うことができた。今年度も総会を行い、授業以外でも、実践交流会を通してお互いに学びを深めていきたい。また、今年度も授業公開を行っていきたい。

《渡島地区》 炬口 毅充 渡島社会科教育研究会 事務局長

会員数の減少が依然として課題である。渡島でも大会があったので、研究部会を設け、中学校は3年生の公民で行いたいと考えている。これらを足がかりとして盛り上げていきたい。

《上川地区》 伊藤 旭人 上川地区社会科教育連盟 小学校研究部長

主に2本の授業づくりを通して、「児童が主体となる授業づくり」を課題として学んでいった。それに関わる様々な成果と課題が浮かび上がってきたので、今年度の活動に生かしていきたい。

《釧路地区》 山口 直樹 釧路地方社会科教育研究会 事務局長

昨年度は札幌大会に向けての提言があり、それらを受けて頑張っている。60名を超える人数を確保したが、依然として会員数に課題を抱えている。特に若手の組織の定着が難しい。工夫して運営していきたい。

《札幌地区》 佐野 浩志 札幌市社会科教育連盟 事務局長

昨年度の全道大会では、たくさんの方においでいただき、勉強させていただいた。今年度は全中社研北海道大会を北海道社会科教育研究会と共催という形で準備を進めている。札幌も他地区同様、「持続可能な社会科教育連盟」ということを考えている。

《後志地区》 寺下 剛史 後志社会科研究協議会 研究部長

昨年度は小学校部会を中心に進めていった。社会科だけではなく、様々な先生に学んでいただけよう、特別支援など多様な視点で学びを進めていきたいと考えている。

《空知地区》 有村 宏紀 空知社会科教育研究会 会長

地区単独で授業づくりを進めることが難しい状況となっているが、タイアップをはかることで実現できている。夕張の教材や、空知の教育センターなど地域素材を生かした魅力ある教材化を通じた実践をしている。

《十勝帯広地区》 大橋 一博 十勝帯広社会科教育研究会 事務局長

研究の一環として京都巡検を計画中である。会員数は現在60名ほどいるが、部会に来るメンバーが固定化しており、若い先生はなかなか来ない現状がある。現在、様々な案を練っている。

《函館地区》 阿部 聖 函館市小学校社会科教育研究会 幹事長

水産業の学習を行い、大変実りのある授業を行うことができた。会員数の少なさが依然課題としてあり、管理職の先生方が多い。実践的な初任者の先生方もできそうな学びを考えていく必要がある。

《檜山地区》 近藤 覚 檜山社会科教育研究会 事務局長

遠方のため、なかなか直接話せる機会をつくるのが難しく、コロナ禍になってからは、あまり集まる機会も設けることができなかった。今後よい報告ができるよう、よい発信ができるよう関わっていきたい。

《留萌地区》 本山 裕一 留萌地方社会科教育研究会 事務局長

他管内と同様、人数の減少により授業開催が難しい状況である。夏と冬の研修を通して学びを深めてきた。冬のスキルアップセミナーの北海道学推進フォーラムでいただいたお話がとても好評だった。

研究主題 「社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成」

研究副主題 ～見方・考え方を鍛え、確かな社会認識をもとに未来を志向する社会科の学び～

北海道社会科教育連盟研究部長 河原 秀樹（北海道教育大学附属札幌小学校）

2023年度より新3か年研究が始まりました。

本研究は、社会認識にとどまらず、社会参画につながる新たな価値を創造する子どもの学びの姿を明らかにしていこうとするものです。VUCAの時代と呼ばれ、将来の変化を予測することが困難な時代の中に生きる子どもたちに、「多様な他者の価値に触れ、自分の価値を創り変えられるようになってほしい」「価値を創造する人物の営み(社会的事象)を通して、確かな社会認識を育んでほしい」「持続可能な社会のために、未来を志向し、新たな価値を創造する子になってほしい」と願い、研究主題の子ども像と研究副主題の授業像を設定しています。

1年次研究では、令和5年11月24日(金)に開催された札幌大会において、札幌地区の7本の授業や全道各地区からの14本の責任提案を通して、研究主題に迫る子どもの姿を明らかにするとともに、研究副主題に迫る授業とその手立てについて皆さんで議論し合うことができました。

そこから見えてきたことを基に、2年次研究に向けて3つの重点を全道各地区の皆さんと共有したいと思います。

重点1 子どもの思考プロセスを大切にしたい単元デザイン

ここで、押さえておきたいことは、単元の学習問題と1時間のつながりを意識することです。子どもと教師で作った単元の学習問題の解決に向けて、子どもの思考プロセスを具体的にイメージしながら単元をデザインしていきたいものです。

重点2 手立てⅢに向かうための新たな問い(問題意識)の醸成

1年次では、各地区において手立てⅢ「社会参画につながる新たな価値を創造する1時間」に挑戦していただきました。2年次では、その1時間の問いが、本当に子ども自身から生まれる問いとなっているのかを吟味し、研究を深めていきたいと考えています。

重点3 「選択・判断する」「議論する」「構想する」活動

「社会参画につながる新たな価値を創造する1時間」は、学習指導要領の内容の取扱いと関連付けて授業づくりをしていくこととしています。この1時間の授業の中では、単元で学んだことを基にしながら選択・判断したり、議論したりすることが重要です。そのことは、単元の問題解決的な学習の充実に他なりません。

手立てⅠ 子どもと社会がつながる教材化と単元デザイン

＜具体的な手立ての例＞

- ・教材化の視点（社会認識と社会参画の視点）
- ・教材分析と見方・考え方のつながりの視覚化
- ・主体的な追究を可能にする単元の学習問題と活動目的、問いの設定
- ・単元の学習過程の工夫
- ・子どもと社会的事象の距離を近付ける手立て
- ・人物との出会いを通して教材と子どもをつなぐ工夫
- ・体験的な活動や具体物の工夫

手立てⅡ 社会認識を深めるための1時間

＜具体的な手立ての例＞

- ・人物の営みを通して社会的事象の意味を考える本時場面の設定
- ・単元で身に付けた知識がつながる本時場面の設定
- ・1人1台端末活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実の中で社会認識を深める工夫

手立てⅢ 社会参画につながる新たな価値を創造する1時間

＜具体的な手立ての例＞

- ・単元の学びが活用される活動の工夫
- ・価値創造につながる新たな問いが生まれる手立て
- ・社会との関わり方について選択・判断する活動
- ・社会の発展について多面的・多角的に考える活動
- ・社会に見られる課題の解決に向けて議論する活動

研究の土台

他者を価値ある存在として受け止める学級経営や教科経営による集団づくり

＜具体的な手立ての例＞

- ・学び方としての知識
- ・自分のよさや可能性への気付きから自己肯定感や、自己有用感を高める学び方

令和6年10月25日(金)は函館大会が開催されます。3か年研究の2年次の成果を、全道各地区の皆さんと語り合いたいと思います。

今年度も北海道の社会科教育を盛り上げていきましょう。

研究主題

「社会的な見方・考え方を鍛え、未来に生きる力を育てる社会科の学び」

函館市小学校社会科教育研究会 研究部長 松浦 真木子（函館市立赤川小学校）

■北海道社会科研究大会函館大会の
開催に向けて

現代の社会は変化が激しく、国際関係や環境、情報や技術の変化に伴う社会生活も、中には「いつもある」「普通」と思っていた事物が無くなることもあります。

未来においては、持続発展を考えることが難しい社会的問題をどう考えるか、更に予測が困難な世の中になるでしょう。

未来に主役となる子どもたちには、そういった社会に対しチャレンジスピリットや希望をもって参画していけるように育ててほしいという願いを研究主題の第一に掲げました。

変動や不可能と考えられていることに対して、冷静に事実を見つめ正しく掴む力、選択・判断に根拠をもって考える力、不可能と思われることから価値を見出し広げる・行動する「未来に生きる力」が必要とされます。

様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を取捨選択しながら再構成し、知識の概念的な理解を図ることなどがが必要です。子どもたちが困難な事態に直面した時、他者と協働しながら課題解決に当たる資質や能力を養うことが求められています。

本年は函館・渡島地区で共同しての開催です。また、小学校部会と中学校部会においても研究に共同重点を設定し、小学校4年間での社会科の学びと学び方の積み上げたものを、中学校で更に応用する姿を目指します。

発達段階を意識した「積み上げ」と「応用」を適正化した問題解決型の学習展開を小中合同の研究の視点とします。その中で、

- ①社会的な見方・考え方を多様に、繰り返し働かせることができる教材化
- ②単元を貫く問い・単元構成
- ③次の持続可能社会へつながる学び

この3点を連動させる手立てを実践します。

研究の視点 1

社会的事象を正しく捉え、社会と未来
につながるための価値に気付く教材

社会的な見方・考え方を鍛える教材とは、その事象自体に多くの要素が求められます。一見、気付かなかつた価値や、他者の考えにふれることができ、社会や自分の未来とつながる問題であるという学ぶ必然性や、学び続ける価値があると気付くような問題であることが求められます。

未来が予測不能であり、解決が困難だと思われる社会的な問題や事象を、自分事として考え続けながら生活を営める力を身に付けるには、今の社会的事象を知識として正しく理解・活用できるようにする必要があります。

習得すべき社会的事象（教材）とその意味（知識）は、重要な社会的な問題であっても理解に余り、逆に社会に関わる無力感を感じてしまうような教材や提示の仕方でもいけません。

教師は、理解の発達段階と社会科が目指す資質・能力を育てる教材として適しているか見極め、その中でも確実に知識・技能として獲得させるべき内容を吟味して明確に位置付けていく必要があります。

知識と見方・考え方は、その教材や地域の事象として限定的、特別なものではなく、日本全国で応用・活用できなくてはなりません。獲得した知識が一般化され、概念として理解されて初めて自分が生きる社会をよりよくできるという考えに至るのではないのでしょうか。

私たちは持続可能な社会の実現を願い、見方・考え方を働かせ、希望を見出す力を社会・地域につながる人々の営みから身に付けてほしいと願い教材化を図ります。未来まで学び続けたい教材、よりよい社会に参画する価値に気付かせる教材を目指したいと考えています。

研究の視点 2

社会的事象の意味から社会認識を深め次の社会を創る価値を考える単元構成

単元構成は共有した問いの解決に向かい、資質・能力を獲得するためのミッションが配され、ミッションをクリアするたびに自分の成長・自信を自覚するストーリーです。徐々に難しい問題に対峙し、乗り越えられるのか、どんなアイテムを過不足なく置くか、構成を考えるのが教師の役割となります。

小学校4年間の社会科で獲得した資質・能力を確実に中学校3年間と連動させ、学び方と知識・技能を発達段階に応じ系統立てて積み上げることが求められます。単元構成を計画する際に、小中7年間の社会科の学び全体を見通していることが肝要です。

単元の終末に新たな価値形成に到達することを目指し、今を知るのは当然として未来に向かって建設的な考え方や持続可能性を探ることを求めます。単元構成は確実に子どもがクリアできる順か、知識・技能は連動して働かせ（積み上げ）られる順になっているか、教師が見極め、旅の地図を用意するのです。

新たな価値形成に到達するまで、さらには将来も考え続けていきたいと思えるような質の高い問いを単元の序盤に共有する必要があります。その問いを追究し続けることや、学びの目標そのものが持続可能なものでなければなりません。「これからどうしていくとよいだろうか」と、社会への関わり方を選択・判断しなくてはならない必然性が生まれる問いを工夫したいと考え、現在、指導案を練っています。

選択・判断・表現する活動は常に根拠をもって行われ、根拠はその学習集団全員が共有する知識でなくてはなりません。必ず協働的な活動の場で集団の知識として共有され、新たな価値や概念であることが求められます。

単元の終盤まで、新たな価値を形成するための単元を貫く学習問題の解決に向け、問いは連動し、未来に向かって既習（中学校においては小学校4年間の社会科で積み上げた「学び」と「学び方」）を根拠にした選択・判断・表現を位置付けた単元構成を目指します。

研究の視点 3

今の自分と社会のつながりから次の持続可能社会へ価値を追究する協働的な学び

未来に向かって考え続ける価値が見出せる、考えてよりよくできるという希望がなくては追究意欲は持続しません。今と未来の社会に、人間の知恵を出し合い、協働すれば予想できないことや未知は乗り越えられるという考えの共有が前提です。教師は、そういった考え方を子どもたちが実感できる教材、単元構成、指導方法を求めることとなります。

個の追究活動と、他者と交流・議論の学びが往還する（積み上げられる）ことで、個人・全体共に学びが深化・洗練され、問い続ける価値と意欲は高まっていくものです。それは、未来の社会に生きる、主体的に社会参画するバイタリティに直結するものです。

単元の始まりから一貫して未来志向・未来に生きるために必要な力を養うための教材・単元構成を目指します。その問題は未来まで考え続けなくては答えが見えません。未知に対する不安は学ぶことで解消され、自分たちではどうにかできる問題ではないという無力感は、未来の社会に願いや希望をもち、新たな価値を創ろうと社会参画・貢献している人々の営みを知ること、子どもたちは自分たちの学びや未来が持続可能な明るいものだと思えるでしょう。そして子どもたちは、学び続ける価値があることに気付くのです。

学ぶ価値が高いと子どもが実感できる問題に、粘り強く積み上げた自信と誇りがバイタリティに変容し、次の未来に参画・貢献しようとする人間性につながるものと考えます。

協働的な学びには、知識の正確性を確かめたり、選択・判断の上での参考にしたり、一般化して捉える・概念化するといった自分の考えを変容・深化させる面の他、学び方そのものを学ぶという面もあります。

個別最適な学びと協働的な学びの往還（積み上げ）が停滞しないように選択・判断・表現が深化、または拡散した思考が収束に向かうように、一人一人の学びの現在地を掴んで次の地点までナビゲートする指導と評価の手立ても明らかにしていきたいと思えます。

4年生部会

単元名:健康なくらしとまちづくり

授業者:北海道教育大学
附属函館小学校
菅原 拓 教諭

「水道・電気・ガス」から「電気」を選択します。子どもたちが電気の供給の様子をしっかりと捉え、地域の人々の健康や生活の維持と向上に役立っていることを理解するとともに、自分たちにできることを考えられるよう努めます。北海道という地域性を考え、子どもたちが状況を想定しながら具体的な計画をもつ力を育てていきます。



6年生部会

単元名:明治の新しい国づくり

授業者:函館市立北美原小学校
今瀨 芳紀 教諭

予測困難な未来にも、持続可能な社会を実現しようとするバイタリティをもてる単元構成を目指します。変化の時代に新たな価値を求めた幕末・明治期の人々の営みから選択・判断をする授業を展開します。この授業を通して、函館の歴史を身近に感じることができるよう頑張ります。



地理部会

単元名:日本の諸地域「中部地方」

授業者:函館市立亀田中学校
中川 陽介 教諭

本単元では、単元を貫く学習課題を「中部地方にはなぜ生産額日本一の県が数多くあるのか?」と設定し、生徒の学習意欲を引き出しながら追究します。また、九州地方の学習経験を生かして、自然環境と産業との関係について、産業と交通・通信の関係について考察し、交通・通信を主題とする関東地方の学習につなげます。



歴史部会

単元名:明治維新と近代国家の形成

授業者:函館市立本通中学校
川邊 真衣 教諭

本単元では、函館市の古写真などを活用しながら、単元を貫く課題である「日本の近代化はどのようにして進んだか?」について考察させます。生徒に自ら習得した語句レベルの知識を活用させ、毎時間「近代化グラフ」を更新させることで、多面的・多角的に近代化を捉えることができるようにします。



公民部会

単元名:民主政治と日本の政治

授業者:北斗市立大野中学校
畠山 拓 教諭

議会制民主主義を推進し、よりよい社会を成立させるために大切なこと、自分にできることを考察し、パフォーマンス課題に向かいます。毎時間の振り返りを重視し、積み上げ、交流することで、どの発達段階の生徒にとっても実りある授業を目指します。



第 79 回北海道社会科教育研究大会 函館大会（開催要項）

<大会研究主題>

北海道社会科教育連盟研究主題 「社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成」

函館大会主題 「社会的な見方・考え方を鍛え、未来に生きる力を育てる社会科の学び」

<大会概要>

- 1 主催 北海道社会科教育連盟 函館市小学校社会科研究会（主管）
函館市中学校社会科教育研究会 渡島社会科教育研究会
- 2 後援 北海道教育委員会 函館市教育委員会 北斗市教育委員会
北海道小学校長会 北海道中学校長会
函館市小学校長会 函館市中学校長会 渡島小中学校長会（以上、予定）
- 3 期日 令和6年10月25日（金）
オンライン／zoom 配信メイン会場：函館市立桔梗小学校（予定）
- 4 日程 10:00～11:45 開会式・研究提案・講演
13:15～16:15 公開授業・研究討議・責任提案

※ 公開授業によって午後からのタイムテーブルが異なります。
二次案内にて詳細をお知らせいたします。

公開 授業	小学4年	菅原 拓	北海道教育大学附属函館小学校教諭
	小学6年	今渕 芳紀	函館市立北美原小学校教諭
	中学地理	中川 陽介	函館市立亀田中学校教諭
	中学歴史	川邊 真衣	函館市立本通中学校教諭
	中学公民	畠山 拓	北斗市立大野中学校教諭

◆講演内容 パネルディスカッション 60分

◆講師（メインパネリスト）

全国小学校社会科研究協議会 会長 石井 正広 氏（新宿区立四谷小学校長）

- 6 参加費（予定） 3,150円（手数料、研究紀要データ含む）

※参加申込み方法については準備中

- 7 大会関連行事 地区交流会（オンライン／zoom）
令和6年10月24日（木） 16:00～17:00



- 8 備考 ○大会詳細の案内及び参加申込受付は、8月を予定しています
○責任提案の本数や内容によって、分科会の持ち方を今後決定していきます。
○函館大会ホームページ2次元コード（随時更新予定）

<問い合わせ先>

函館市小学校社会科教育研究会 幹事長 阿部 聖（函館市立八幡小学校教諭）

TEL：0138-41-5245 メール：79zendoushaken@gmail.com